令和4年度文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業選定（令和4年度～10年度、7年間）

埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成　Newsletter

第8号

■ 発行　埼玉医科大学／群馬大学　Saitama Medical University ／ GUNMA UNIVERSITY

本プロジェクトで大切にしていること　vol.7

埼玉医科大学　学長　事業推進代表者　竹内 勤

■埼玉群馬の魅力とそれを支える医療人育成

埼玉県と群馬県は、関東の中部から北部にあって、利根川による長い県境を挟んで南北に隣接し、歴史的にも深い結びつきがあります。医療における繋がりも強く、医師不足が深刻な両県県境の医療を支えるため相互に連携してきました。そのような中、埼玉と群馬が共に協力して未来の医師を養成する埼玉と群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業が、2022（令和 4）年 10 月にスタートしました。

2023（令和 5）年 4 月から、計画通りに 5 つのプログラムが順次、立ち上がり、1 年生から 6 年生までの全学年においてプログラムが展開され、2024（令和 6）年からは、1 年生の在宅医療早期体験実習も行われています。実際の医療現場を訪問した体験は、医師を目指す医学生にとって大変印象的な学習の場になったのではないかと思います。このプログラム以外にも、地域医療や生活の場である地域の学習、多職種連携を学ぶ IPE 演習、県境地域の医療機関を訪問する利根川プログラムなど、多彩で興味深いプログラムが多数配置されています。ここでの学習を通して、地域医療への思いを心に刻んだ学生が、医療人となるべく着実に学習を積み重ねています。

『文明は、辺境から生まれる』と明治の教育者が語ったそうです。その意味は、文化が成熟した中心地から少し離れた場所、特に異文化が交わる辺境でこそ、新しい文化・文明が生まれるというものです。とりわけ、川で挟まれた地域は、豊かな水に恵まれた肥沃な地域であり、隔てられたそれぞれの地域の異なる文化が交わって大きなエネルギーを生み出すとも考えられます。まさに、埼玉県と群馬県、がこの条件に合致します。都心から少し離れた埼玉･群馬、その豊かな自然と広大な土地、そこに暮らす人々の異なる文化は、大いなる可能性を秘めており、そこに暮らす人々とともに、その医療を支えて行くのは、未来の若き医師、医療人です。この魅力ある埼玉・群馬の未来に思いを馳せ、本事業で育成された医療人が、埼玉・群馬の医療を力強く牽引してくれる日を待ち望んでいます。

在宅医療早期体験実習について（埼玉医科大学）

埼玉医科大学　医学教育センター　助教　小池 啓子

■埼玉・群馬県境での在宅医療早期体験がもたらした学生の学び

埼玉医科大学の医学部 1 年生の『在宅医療早期体験実習』が開始し、2 年目を迎えました。県内で在宅医療を担う医療機関等に学生が単身で向かい、医師の活動に同行させていただくプログラムです。令和 6 年度は 49 機関、今年度は 72 機関が学生の受入れをご快諾くださり、おかげさまで学生たちは個々に充実した学習経験をし、心を突き動かされる体験をしてきたようです。

この実習は、臨床入門の実習の一つとして位置づけられており、学生は訪問診療や往診、施設訪問等の場面に約半日間同行させていただきます。保健医療福祉に関する初学者である 1 年生は、専門領域の学習が未熟な段階ではあります。このため、本実習では、まず地域を知り、生活者である人々への医療を知り、医師の姿勢、療養者やご家族との対話から、医師になるための自己課題を見出すことを目標としています。学生はこれまで地域そのものや、地域医療に関心を持つ機会はあったものの、医学生として実際の地域での診療･診察場面に同行する機会はありませんでした。また、埼玉県内各所での実習ですが、ほとんどの学生は配置先となる地域が未踏の地でした。そのため、学生は配置された医療機関の所在地の地域理解、訪問診療や往診に同行する際の礼節、見学時や対話時の適正な行動などに重点をおいた事前学習課題に取り組み、実習に向かう準備を整えました。実習に向かう学生に心構えを尋ねると、不安よりも楽しみが先行している印象であり、医師だけなく看護師、事務職等への関心や、制度への興味、マナーに関する自信などを表出する傾向が見てとれました。「連携・協働できる医師になるために、看護師さんや事務の人にどんな医師だと一緒に働きやすいのか、実習の時にアドバイスをもらおうと思う」「大きな病院との連携や、在宅復帰支援の実際を知りたい」など、初学者ならではの素直さや、純粋な心構えの表出に加え、すでに学習していることを深化させるための意欲を示す学生もいました。

今年度は、埼玉県と群馬県の県境に近い地域の機関からも学生の受入れをご快諾いただきました。長瀞町にある南須原医院で実習をした学生の星野伊央里さんは、自身の社会経験や生活経験を踏まえて、医師だけでなく事務職や看護職、介護職への関心を高めるとともに、地域連携の実際について「医師の偏在や、地域の特性に応じた柔軟な連携や協働を知ることができた」「スタッフや地域住民との交流を大事にできる医師の大切さを改めて実感した」と話していました。

入学後早期に、在宅医療を担う医師や多職種に出会うこと、療養者や家族の生活に触れることで、学生は机上で学んだことの統合と、生活体験や学習計画について課題を明確にする好機になっています。この経験をこれからの学びの礎とし、地域医療・在宅医療への関心がますます高まることを期待しています。

夏のプログラム 2025

■ 利根川プログラムバスツアー

埼玉医科大学副医学部長　事業推進プロジェクトサブリーダー　林　健

春季および夏季の利根川プログラムバスツアーも 2023 年度の開始から回数を重ね、両県の 13 の連携医療機関すべてに見学の機会を設けていただきました。夏はお盆、春は年度末と、病院が特に忙しい時期に、多くのご負担をお掛けしております。

試験勉強をしていた思い出というのは残らなくても、暑い中にバスで行った病院見学の思い出はずっと残ります。学生には、将来ずっと先になっても思い出になる学びの機会を提供できればと思っております。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

【学生の感想】　**埼玉医科大学 2 年　柿崎 里弥**

利根川プログラムに参加して最も良かったことは、現場で働く医師の声を直接聞けた点です。大学の授業では設備見学や説明を受けられますが、研修医や医師に働く環境について伺う機会は少ないと思います。実際に研修医の方から話を聞き、多くの質問に答えていただいたことで、将来の働く姿を具体的に想像できました。また群馬大学の学生とも交流でき、他大学の視点に触れることで視野が広がったと感じました。早い学年から参加することで、多様な病院を知り就活への備えになると考えます。

■ 自治医科大学と埼玉医科大学の夏季研修

埼玉医科大学　医学教育センター　准教授　井上　直子

自治医科大学の学生との合同の実習を行いました。8 月 20 日(水)から 8 月 22 日(金)の 3 日間という短い期間でしたが、お互いに大変刺激のある実習だったようです。

特に 2 日目は、秩父市立病院、小鹿野中央病院、大滝国民健康保険診療所に分かれての実習で、その中の一つの病院では「緩和ケア」に関するカンファレンスに実際に参加させていただきました。「患者と家族に寄り添う医療」を具体的にイメージすることができ、「自分の将来の医師像が具体的なった」と、感想がありました。

※写真は大滝保健センターでの健康教室の様子 →

【学生の感想】　**埼玉医科大学 1 年　長谷川 絢夕**

この夏季研修は、自身の将来のキャリアについて改めて考える大きなきっかけとなりました。

実際の医療の現場を実習させていただくことで、大学卒業後にどのような場で働くのか、また将来共に働く方々はどのような人々であるのかについて、具体的なイメージを持つことができました。また、地域住民の実際の声に触れることで、理想とする医師像をより明確にすることができました。さらに、自治医科大学の学生の皆様と交流する機会は非常に刺激的であり、日々の学習に対するモチベーションを高めるものとなりました。全体を通して、大変充実し有意義な 3 日間であったと感じています。

この研修にご尽力くださった多くの方々への感謝の気持ちを胸に、今後は地域医療を担うにふさわしい医師となれるよう、一層努力を重ねていきます。

令和 7 年度　埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウムのお知らせ

※ウェビナー併用

令和 8 年
2月23日(月・祝)

時間　13:00 ～ 16:30　**参加無料**

会場　ウェスタ川越（埼玉県川越市）

第 1 部　特別講演：宮崎県都農町国民健康保険病院　**吉村 学先生**

第 2 部　埼玉医科大学・群馬大学によるプログラム振り返り

※詳細は、事業ホームページ・SNS にてご確認ください。

埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成　Newsletter　第 8 号

編集・発行：埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業事務局
住所：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
TEL：049-276-1109
発行日：2025 年 11 月
E-mail：sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp
URL：https://sgmirai.jp

無断転載禁止

For Students